

授業づくり

実践編：国語「漢字学習①～書き順指なぞり帳・練習帳の活用」

教科の目標：学んだ漢字を読むことができる。書くことができる。文や文章の中で使うことができる。

日本語の目標：漢字学習を通して、語彙を増やしていく。

活動展開

※ 「書き順指なぞり帳」及び「練習帳」は、コンテンツの中に☆すぐ使える資料☆として掲載しています。

①文字を捉えるのが難しい子どもには、いきなり書く練習ではなく、「書き順指なぞり帳」(※)を活用して、スモールステップで記憶を促す。

②「練習帳」(※)を活用して、自分のレベルに応じた学習に取り組む。

①「筆の運び方」を意識させながら、「いち、に、さん…」と声を出しながら指でなぞっていく。

②声を出して読む。「やすむの『やす』」

③例文を読む。

④「①②③」をセットで声に出して5回練習後、黒文字を書き順通りになぞるかチェック。

⑤最後に空書きで書けることができたなら、鉛筆を持って書き練習。

横に書いていくので、手本が見やすい。

右側に向かって
①読み仮名を書く。
②丁寧になぞる。
③なぞった手本を確認しながら2回練習。②③を繰り返す。

【フリースペース】
覚えていない漢字があれば、さらに書いて練習。
すでに覚えていれば、他の熟語、漢字を使った単文を書いて練習。
※熟語は国語辞典で調べてもOK。

記憶支援

正しい書き順で、意味と音を結びつけ、語彙を増やしながらか記憶を促す。

自律支援

自分に合った覚え方、学習スタイルを考えさせる。

ここがポイント!

言葉の「意味」と「音」と「文字」を一緒に提示し、常にそれぞれを確認したり結びつけたりしながら学ばせましょう。

ここがポイント!

どうやって記憶に留めておくか、それぞれに合った学び方が見つかるよう、選択肢を用意し、体験させ、選ばせてみましょう。

授業づくり 実践編：国語「漢字学習②～ゲームやクイズを用いた記憶支援～」

教科の目標：学んだ漢字を読むことができる。書くことができる。文や文章の中で使うことができる。
日本語の目標：漢字学習を通して、語彙を増やしていく。

活動例

- ・「書き順指なぞり帳」を活用して、漢字のへんやつくり等の組合せを意識させるためのパズルゲームに取り組む。

- ・空書きクイズでペアチェックに取り組む。



～パズルゲームで記憶支援～

- 正しい組み合わせと読みが言えたらカード獲得。
- トランプの神経衰弱のように使ってみたり、読みは漢字を使った熟語が3つ言えたらプラス1ポイント加算などのルールを加えたりしてもよい。



月を空書きで書いてください。



何の漢字を書いているでしょうか。

～空書きクイズで記憶支援～

- 新出漢字から漢字を指定して、空書きで書いてもらう。
- 新出漢字の中からどの漢字を空書きしているかを当ててもらう。
(漢字の読みで答える。レベルアップ問題では、更に漢字を使った熟語や単文で答える)

記憶支援

漢字のへんやつくり等の組合せを意識させることで記憶を促す。

自分が何を覚えていないのかをチェックし、そこを集中して練習することで記憶を促す。

ここがポイント！

文字認識や記憶には個人差があります。文字の構造で覚えるのが得意な子は、上記のようなパズルゲームが有効かもしれません。体を動かして覚えるのが得意な子もいるかもしれません。音で認識するのが得意な子は、リズムに合わせて音読しながら覚えるなどの工夫が有効かもしれません。

授業づくり 実践編：国語「漢字学習③～学習した漢字を使ったお話作り～」

教科の目標：学んだ漢字を読むことができる。書くことができる。文や文章の中で使うことができる。
日本語の目標：漢字学習を通して、語彙を増やしたり、文章を書いたりすることができる。

活動例

学習した漢字を使ったお話作りで作文に取り組む。

①新出漢字を学習した後、

その漢字を使った
自作のお話を作って書く。

(自力が難しいようなら、教師が会話
の中で質問したり確認したりしながら、
児童生徒が考えていることを引き出す)

②音読する。

(家庭学習でも漢字学習と
連動させて取り組ませる)



↑絵に描かせることで
内容理解を確認する

くんは、友だちと公園であそんでいました。そこに、小さなサルがいました。体の毛をむしって、その毛をくんの頭の上において、
「ウツキー、ウツキー、ウキキキキキ。」
と、わらいました。くんは、頭にきておこりました。
「まてえ、このいたずらザル。」
と、くんはまっ赤な顔になって、サルをおいかけました。サルはにげていき、公園にいた先生の首にぶらさがりました。
「先生、そのサルをつかまえて。」
と、くんはさげびました。先生はサルの頭をなでて、
「よしよし、いい子だね。」
という、サルはよろこびました。

↑児童(2学年)が作った、児童自身が主人公になったお話。

記憶支援

文脈の中で漢字語彙を覚えながら記憶を促す。

表現支援

学習した漢字を使って作文が書けるよう、会話の中で考えを引き出す。

自律支援

主体的に学習に取り組ませることで、意欲や発想力を引き出す。

ここがポイント!

学んだ漢字を「使ってみたい」、漢字を使って「相手に伝えたい」、と思わせるような”仕掛け“を、児童生徒の実態に合わせて用意してみましょう。

授業づくり 実践編：国語「漢字学習④～エピソード～」

～エピソード①～

漢字小テストにて、10問完答に加え、問題の漢字を使った熟語や単文を書くごとに、プラス10点を加えるようにしました。すると、さまざまな熟語を覚えようとする子、国語辞典で調べる子など、意欲的に漢字学習に取り組む子が増えました。



～エピソード②～

児童生徒はどこで漢字に興味を示すのでしょうか。友達や好きなスポーツ選手、アイドルの名前から興味をもつ子、好きな漫画やアニメから興味をもつ子…ある子は漫画から興味をもち、日本語や漢字を覚えたそうです。漫画には、漢字に振り仮名もあるし、絵もあるし、ストーリーもあるので、場面や文脈の中で漢字語彙を覚えるのによってつけだったようです。



授業づくり 実践編：単元「小学校2年生算数：かけ算」

教科の目標：乗法の意味について理解を深め、それを用いることができる。

日本語の目標：「○のだけは、かける数が1ふえると、答えは○ふえる」

「かける・かけられる（受け身表現）」「はじめに、次に、最後に（手順・順番）」

等の表現を理解し、使うことができる。




活動展開

- ① かけ算について、アレイ図等を用いて構成を理解するとともに、右図のような動作化を用いたゲームによって、理解を深める。

かけられる数

かける数

教室のみんな
答えを手拍子&足踏み


→

→






♪パン×手拍子2回 × ♪パン×手拍子3回 = ♪パン×手拍子6回

2 3 6

問題を出す2人を決める



「せ～の」


→

→

→


♪パン×手拍子3回 × ♪パン×手拍子4回 × ♪ドン×足踏み1回 ♪パン×手拍子2回

3 4 1 2

足踏みが十のまとまりを示す

リズムよく、テンポよく、楽しく取り組んでみましょう！慣れてきたら、徐々にスピードアップしてみましょう。

理解支援

記憶支援

かけ算の意味や数の概念の理解・定着を促す。

活動展開

②かけ算について、友達に説明する。

のだんは、
かけられる数

かける数が1ふえると、答えが2ふえる

例： $2 \times 2 = 4$
1ふえると↓ ↓2ふえる
 $2 \times 3 = 6$

～かけ算のきまり～

いつでも教室掲示の表現モデルを振り返ることができるようにする

友達の説明に
動作を
交えながら



友達が言葉につまずいている時は、かえられる数、かける数の役割の子がサポート

フラッシュカード

はじめに

つぎに

さいごに

はじめに、かけられる数の人とかける数の人を決めます。

次に、2人の手拍子の数をかけます。

最後に、みんなで答えの数だけ手拍子します。

$2 \times 2 = 4$ なので、4回手拍子します。

2のだんは、かける数が1ふえると、答えは2ふえます。

2×3 は、かける数が1ふえるので、答えが2ふえて、6回手拍子します。

$3 \times 4 = 12$ は、12回手拍子するのが大変です。

10と2に分けて、10は足踏み1回、2は手拍子2回にします。

表現支援

日本語の表現モデルを確認しながら説明できるようにする。

ここがポイント!

動作化を用いたゲームや友達への説明といった場を設け、学習への理解や、かけ算九九を覚えたい!とのモチベーションを促してみましよう。

授業づくり

実践編：単元「小学校3年生理科：こん虫のからだ」 東京書籍

教科の目標：いろいろな昆虫の体のつくりについて**比較・分類**し、昆虫かどうかを**確認**し、自分の考えを**表現**することができる。

日本語の目標：「**〇〇は、頭、むね、はらからできていて、むねに足が6本あります。**」
「**だからこん虫です。**」等の表現を理解し、使うことができる。

活動展開

こん虫の成虫のからだのつくりは、どのようになっているのだろうか。

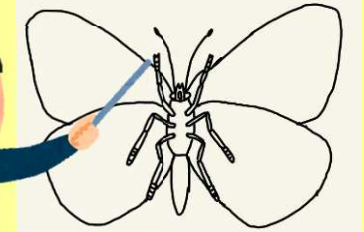
- ①課題をもつ。
- ②いろいろな昆虫の体のつくりを観察し、**比較・分類**する。→**似ているところ、違うところに着目させる。**
- ③どのような視点で**比較・分類**したのかを**確認**し、伝え合う。
- ④昆虫の体のつくりについて、自分の考えをまとめる。
- ⑤昆虫の体のつくりを理解し、**表現**する。

表現モデルで
伝え方を示す

〇〇は、
頭、むね、はら
からできていて、
むねに足が6本
あります。

キーワードで視点に着目させる

「はら」は
どれですか？
青色で
ぬってみましょう。



頭 むね はら

端末で撮った
写真を並列させ、
比較させる。



表現支援

キーワードやモデル文を示すことで、安心して表現できるようにする。

ここがポイント！

学習活動を通して、「理科の知識及び技能」「比較・分類する力」「確認する力」「表現する力」を身につけさせながら、「学習活動に参加するために必要な日本語の力」を身につけさせましょう。

授業づくり

実践編：単元「小学校5年生社会：国土の気候の特色」 東京書籍

教科の目標：地図や気温図等を基に、日本の気候の様子を捉え、特色について考え、表現することができる。

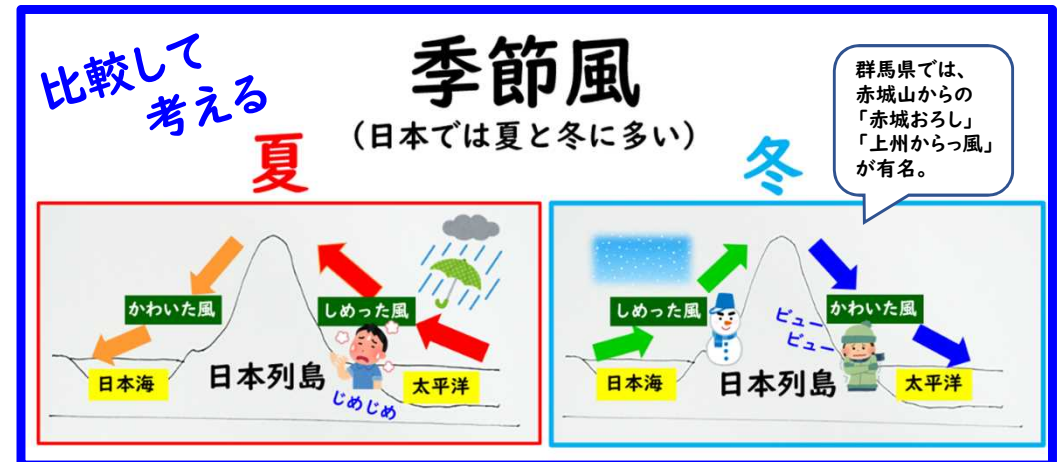
日本語の目標：日本の各地域による気候の違いや日本と母国との気候の違いについて、下記のような日本語を使って説明することができる。

○○は～だけど、△△は～です。○○は△△より～です。○○が～なのは～だからです。

押さえておく言葉：季節、四季、気候、特色、つゆ、台風、季節風、かわいた風、しめった風、降水量 など

活動展開

- ①日本の四季の変化とともに、気候が時期や場所によって異なることを捉える。
- ②地図や写真、グラフから、つゆと台風、季節風の特色について考える。
- ③地域によって異なる気候の違いや、日本と母国の気候の違いやその理由について話し合い、まとめることができる。



理解支援

資料(地図や写真、グラフ等)を端末を使って大きく示したり、説明を動画で示したり、比較内容を並列で示したりして、分かりやすく理解を促す。

ここがポイント! 「資料を読み取る力」「比較する力」「関連付けてまとめる力」等を身につけさせながら、「学習活動に参加するために必要な日本語の力」を身につけさせましょう。

授業づくり 実践編「自律支援につながる1人1台端末活用」

教師による **理解支援** だけで終わらせるのではなく、

「分かりやすい日本語」
「視覚化」など

記憶支援 (インプット) のために、

児童生徒による **自律支援** につながる

1人1台端末活用 (アウトプット) を促しましょう。



例えば、

- ・学習した言葉や文を、イラストや、自分で撮影した写真、動画などとリンクさせて書き残しておく。
- ・書き残した言葉や文を、**比較**したり**分類**したりして、いつでもすぐに振り返ることができるよう**整理・分析**しておく。
- ・スケジュールや大事な連絡、持参するものなどの情報を、端末のカレンダーに記入して「見える化」することで、生活の中での活用につなげる。

もちろん比較・分類を行う視点や
端末上の操作方法は指導が必要

